

# 周作クラブ会報

(第73号)  
2018年11月25日発行

周作クラブ

## ◆主な記事◆

総会関連報告・ 原点の旅	2, 1,
周作報告・ 周作クラブ会則	5, 3, 4
遠藤周作学会報告	8, 6
長崎文学館便り	7, 6
周作クラブ長崎便り	11, 9
連載	15, 10
	9, 7
	面
	面
	面
	面

報告——第18回定時総会

## 来年度「原点の旅」は、『侍』の舞台・仙台を再訪 3・11後、初めて東北へ

2018年9月29日(土)午後4時30分から、例年のように東京神田一ツ橋・如水会館で「周作クラブ」第18回定時総会が開かれた。遠藤周作没後22年となる今年度の総会出席者は23名、委任状203名で計226(会員総数は373名)で過半数となり会は成立、予定された議題をすべて審議・承認して夕刻5時過ぎに終了、恒例の「周作忌」へと移った。



▲総会 第18回定時総会  
▲周作クラブ総会は18回目になりました

周作クラブ定時総会は29日、如水会間オリオンルームで定刻の午後4時半から行われた。高橋千劍破幹事の開会宣言に続いて宮辺尚幹事(会員担当)から、現在の会員数について報告がなされた。この1年間における入会者は17名、退会者は38名で、21名の減となった(前年度は1名減)。したがって今年度8月1日現在の会員総数は373名(ただし総会当日までの会員数は375。「周作クラブ長崎」70名は除く)。

この報告のあと、幹事会からの推薦で会員の大原雄さんが議長として選出され、議事に移った。

### ●第1号議案——前年度事業報告

(加藤宗哉幹事)  
昨年9月29日(金)の「周作クラブ」総会から本年8月までの全事業は、9月29日の周作忌(如水会館)、1月27日(土)の新年会(日仏会館レスパス)、4月14日(土)の文学セミナー(慶應義塾大学内「萬来舎」)、5月19(土)21日(月)にかけての「遠藤文学原点の旅」(大分—大友宗麟とペトロ岐部)、そして4回の会報発行であることが報告された。

### ●第2号議案——前年度会計報告

(一田佳希幹事)  
前年度の収入は、前々年度からの繰越をふくめて2,037,753円、支出は1,428,087円。したがって今年度への繰越金は609,666円となること、さらにその内訳が説明されたのち、会計監査の高田幸子さんからの監査結果が報告され、拍手で承認された(詳細は会報5ページ参照)。

### ●第3号議案——役員・委員について

(加藤宗哉幹事)  
本年度は役員改選の年度にあたり、新役員・委員が発表・承認された。なお、昨年から加わった2名の新幹事(一田佳希・今井真理)の担当部署と、会計監査役員変更(新監査役・高田幸子)の2点は、昨年の総会において提案され、すでに承認されている。それ以外の変更は、会報副編集長として亀岡園子があらたに着任、前副編集長・

田村百合子は総務委員への復帰となった(新幹事・委員の詳細は会報4ページを参照)。

### ●第4号議案——今年度事業計画

(加藤幹事)  
会報の発行(4回)と、1月27日(日)の新年会、4月の文学セミナー(次号会報に案内を掲載)、5月19(土)20の遠藤文学原点の旅『侍』の舞台・仙台を訪ねる(会報4ページに簡単なコース紹介と申込先などの案内があります)が計画中であることが発表された。

### ●第5号議案——今年度予算

(一田幹事)  
今年度の収入見込は、1,882,710円、支出見込は1,583,880円、予備費が298,830円となり、その内訳が説明されて拍手で承認された。

以上の5議案ですべての審議を終了し、この後「周作クラブ長崎」の代表世話人・高尾直子さんの挨拶があり、『女の一生』の朗読劇の稽古に励んだ長崎の活動も報告されて、第18回定時総会は午後5時過ぎ、閉会した。

なお、総会出席者はこのあといったん退室し、同じ会場で行われる午後6時からの「第22回周作忌」へと行事は移っていった。

(記・加藤宗哉/写真・清水優子)